

勉強のやり方を指導する

伽原 美也子

私が企業研修や大学に行って学習指導をするとき、「こんなことに注意して勉強してください」として、次のようなことを話します。

①捨て科目を作らない。

②「好きな科目だけ勉強する」「得意な科目だけ勉強する」といった勉強方法はやめる。さて、この2つには共通点があるんですが……何かわかりますか。いずれも「ムラのある勉強になってしまう、またはムラができやすい勉強方法である」ということです。

捨て科目が捨て科目を呼ぶ

①に関しては……。そりゃあ確かに「3、4年に1題出るか出ないか」といった問題なら、ある程度は考えた方がよいかもかもしれませんが、そういう問題ならいざ知らず、題数の多い・少ないはあっても毎年出題されている科目・範囲は、勉強しておかなければなりません。「有機化学は苦手だから捨てよう」なんて方が、92回の国家試験でどれだけ悔しい思いをしたかご存知ですか？。有機化学出題史上「最も易しい有機化学」だったんですよ！。ある程度過去問題を理解しておけば、高得点が望める内容だったんです。捨てた方は……有機化学の難易度が低いなんていう「薬剤師国家試験千歳一隅のチャンス」を逃してしまったことになります。国家試験に合格するためには「1点でも多く点を取る」ことが求められるのです。国家試験では何が起こるか分かりません。捨て科目はありませんよ。

そうそう、ここで気になったことを1つ。最近の学生さんは大技(?)ですよ。有機化学捨てたとか「物理化学捨てた」とか、ものすごく広い範囲を捨てるのでびっくりしてしまいます。中には「計算問題捨てた！」なんていう、大技というか荒業というか、捨

て身の攻撃というか、とにかく“とんでもない国家試験対策”をなさる方もいらっしゃいます。そりゃあ確かに240点満点を取らなければならぬわけではありません。しかし、合格ラインを超えるだけの学力は必要ですよ。そのためには“1点1点しっかり取っていく”こと以外に方法はありませんし、そのためには国家試験範囲をまんべんなく勉強していかなければなりません。

悪いことに、捨て科目は捨て科目を呼びます。つまり、1つ捨て科目を作ってしまうと「これも捨てよう、あれも」という具合に、捨て科目を増やしてしまう弊害もあるのです。初めは「これは勉強しよう、コレは捨てよう」なんていう四捨五入のつもりでも気がつけば「基礎薬学捨てた」なんていう「捨て身の切り捨て」になってしまい、その結果「足切り」になってしまい……なんて可能性が出てくるのです。

不得意科目から目を逸らすな

②に関しては……。ムラなく勉強することにおいて、最も重要なことです。だれも初めから「ムラのある勉強をしよう！」なんて人はいないはず。なのに、なぜムラのある勉強方法になってしまうのでしょうか？。その原因がコレ、つまり「好きな科目・得意な科目だけ勉強する」といった“選り好み学習”にあるのです。好きな科目だけ勉強したい気持ちはわかります。やはりスムーズに進む勉強は楽しいし、高得点が望める科目は試験結

”まんべんなく・ムラなく勉強すること！”
薬剤師国家試験対策の一番のポイントは

果を見るのもうれしくなります。しかし、どんなに「〇〇学はバッチリ」であって「〇〇学は100%得点できる」であっても、1つの科目だけで160点、180点取ることはできないのです。別に「得意な科目があることが悪い」と言っているわけではありませんよ。得意な科目があることは良いことですし、それに関連した科目での得点UPに結びつくことも確かです。得てして、学力のない学生は、何か得意な科目にすがり付こうとする傾向にあります。「〇〇は得意だ」ということにすがり付くことによって、できない科目から目を逸らそうとします。その結果「できない科目は勉強しない」ということになってしまいがちです。

薬剤師国家試験は様々な科目から成り立っています。残念ながら、1つ2つの科目だけで合格点に到達することはできません。なぜなら、薬剤師国家試験の真意が「薬剤師という医療人が最低限習得しておかなければならない知識の確認」に重きを置いているからです。そしてこの「最低限習得しておかなければならない知識」は幅広いものなのです。合格するためには、幅広い偏りのない知識の習得が求められており、いわゆる“足切り”が存在するのはそのためです。やはり、出題範囲をムラなく・まんべんなく勉強していかなければなりません。「ムラのある学習」は「ムラのある成績」を生みます。「ムラのある成績」は、「どんなに勉強しても総合点が伸びない」という結果をはじき出し、学力向上の妨げへとつながります。それが焦りへと変わります。その焦りはなぜか「できない科目」や「不得意な科目」に向けられることはなく、さらなる「得意科目へのすがり付き勉強」を加速する結果になってしまいます。前述しましたが、得意な科目があることは決して悪いことではありません。しかし、それだけにすがり付き、他の科目をないがしろにしたり、不得意な科目から目を逸らすことは、間違いなく学力向上の足かせになってしまうのです。小さい頃、お父さん・お母さんから言われたでしょ？。「好き嫌いをしないで何でも食べなさい」って。アレは勉強にも言えることなんですよ。



クラフトで何ができるのか、そして自分は何がしたいのか



わたしたちと一緒に 見つけましょう、進むべき道を。

全従業員中、薬剤師は80%を占めています。当然のことながら現在どんなに責任ある立場にいて、大勢の部下がいる人でも、平等に「駆け出し」の頃がありました。薬剤師として社会に出て、薬剤師として働く。誰でもスタートはあまり変わりません。しかしその後さまざま経験や知識を習得して、ある人は調剤の現場で薬剤師としての経験を重ね、さらに深い知識を追求している。また別の人は調剤の現場を離れ、会社の経営に携わり新たな自分の可能性を広げている。というように決してひとつのレールを全員が同じように歩いているわけではありません。その背景にはクラフトという大きな企業だからこそ持ち得る選択肢の多さがあります。

クラフトは「薬剤師として」ということだけが、患者に対する貢献と考えているわけではありません。自分が薬剤師として今何ができるのかを考えることはもちろん、将来自分が何をしたいのかが大切です。調剤、コミュニケーション、将来の自分。そのどれにでも共通するのは分析することの重要性。クラフトにはそれらをバックアップできる体制と数多くの選択肢があります。

さあ、一緒に見つけましょう。あなたの新しい目標と進むべき道を。



携帯からはこちら

クラフト株式会社 〒102-8478 東京都千代田区麹町5-1 真和ビル6F
TEL.03-3265-8032 FAX.03-3222-5228 人事部採用担当 亀屋、松井
URL : http://www.kraft-net.co.jp e-mail : jinji@kraft-net.co.jp